



「新渡戸稲造記念センター」創設1周年に寄せて

東京医療生活協同組合 新渡戸記念中野総合病院病院長

入江 徹也

2019年4月、東京医療生活協同組合新渡戸記念中野総合病院内に、著書「われ21世紀の新渡戸とならん」で知られる順天堂大学名誉教授樋野興夫先生をセンター長に迎えて「新渡戸稲造記念センター」が創設されました。突然のことに驚かれた方もいらっしゃると思いますので改めて当院と新センターの紹介をさせていただきます。

当院は1932年5月27日に新渡戸稲造博士や賀川豊彦氏たちによって創立され、初代組合長には新渡戸博士が就任しました。現在のような国民皆保険制度が整っていなかった当時、すべての人に高度な医療を提供する経済組織を興えるために病院を協同組合という形で運営するという画期的なことであり、しかもこの新病院は保健医学・予防医学まで見据えた非常に先進的なものでした。1961年に我が国に現在の健康保険制度が完成したため創立時の目的は大きな意味では達成されましたが、当院はその後も皆保険制度下で医療を実践する一病院として活動中です。1973年から東京医科歯科大学より医師が派遣され現在は同大学の教育関連施設（東京医科大学・帝京大学・山梨大学・埼玉医科大学とも関連を持っています）となっています。

この間2003年には日本生協連から、2006年には東京都生協連から離れて単独の組織として地域医療に貢献しています。2015年10月創立時の精神に立ち帰り、これを次世代に引き継ぐことを目的に病院名を「新渡戸記念中野総合病院」と改めました。新渡戸稲造博士の精神（誠意と思いやりの心）を基にした理想の病院像を求めて努力しています。「新渡戸稲造記念センター」は新渡戸稲造博士の志を日本の国内外へ広め実践する拠点とすることを目的に創設されました。樋野興夫先生が長年活動されてきた「がん哲学外来」も当院内で開設されています。2020年3月からは新渡戸博士をより深く理解するために樋野興夫先生を囲んで院内で「武士道」の読書会が始まりました。



新渡戸稲造読書会 in 新渡戸記念中野総合病院

新渡戸稲造記念センター長 樋野 興夫

2020年3月5日 新渡戸記念中野総合病院で第1回 新渡戸稲造読書会「新渡戸稲造著『武士道』」（矢内原忠雄訳 岩波書店発行）が開催された。筆者の「新渡戸稲造記念センター長 就任1周年記念」でもある。

「東京医療生活協同組合 新渡戸記念中野総合病院」は、新渡戸稲造（1862-1933）・賀川豊彦（1888-1960）らによって創設された（1932年）。今回は、第1章『道徳体系としての武士道』で、入江徹也 理事長/病院長、山根道雄 副院長の朗読であった。新渡戸稲造は、札幌農学校に学び、卒業後は東大に入学するが、この面接試験で将来の希望について「我太平洋の架け橋とならん」と答えたという逸話を残している。しかし新渡戸稲造は東大の学問レベルに満足せず、アメリカに留学する。帰国後、母校である札幌農学校の教授に就任、教育と研究に勤め、また北海道開発の諸問題の指導にあたるが、体調を崩してカリフォルニアに転地療養をすることになる。このカリフォルニアでの療養中に書き上げ、刊行したのが、『武士道』である。

当時36歳の保養中（1899年）の『武士道』（1900年発行）に275名の人名が記述されている。日本人83名、イギリス人60名、ドイツ人21名、ギリシャ人20名、ローマ人19名、アメリカ人18名、フランス人16名、中国人6名、その他32名であらうか！これは、新渡戸稲造の札幌農学校の学生時代の読書歴の賜物であらう！

新渡戸稲造は台湾総督府に招聘されて台湾に渡り、農業の専門家としてサトウキビの普及、改良、糖業確立へと導く。また東大教授と第一高等学校校長の兼任、東京女子大学学長などを歴任した。そして第一次世界大戦後、国際連盟設立に際して、初代事務次長に選任され、世界平和、国際協調のために力を尽くしている。国際連盟事務次長時代の新渡戸稲造が設立したのが「知的協力委員会」である。世界中の叢智を集めて設立した「知的協力委員会」には哲学者のベルグソンや物理学者のアインシュタイン、キュリー夫人らが委員として参加し、各国の利害調整にあった。この「知的協力委員会」の後身がユネスコである。思えば、癌研時代、今は亡き 原田明夫 検事総長と、2000年『新渡戸稲造 武士道 100周年記念シンポ』、『新渡戸稲造生誕140年』（2002年）、『新渡戸稲造没後70年』（2003年）を、企画する機会が与えられた。順天堂大学に就任して、2004年に、国連大学で『新渡戸稲造5000円札さようならシンポ』を開催したのが 走馬灯のように駆け巡ってくる。

新渡戸稲造読書会は、「自分の力が人に役に立つと思うときは進んでやれ」（新渡戸稲造）の実践であらう！ 次回は、第2章「武士道の淵源」で、横井事務局長、中野看護部長の朗読である。乞うご期待である。

2019年4月新渡戸記念中野総合病院の中に「新渡戸稲造記念センター」が設立され、初代センター長に樋野興夫先生がご就任されました。それから1年、樋野先生の活動は益々活発になって、週刊アエラに取りあげられるなど世間がさり気なく気になってきていますね。ところで樋野先生の数多くある著書の中に「われ 21 世期の新渡戸とならん」という著書があります。その序文の中で新渡戸との邂逅について書かれている件があります。樋野先生曰く、19歳の時に出会った人物から伝え聞いた南原繁の人となり強く共鳴し、彼の多くの著書を読んだそうです。南原繁の著作を読み込んでいくにつれ、南原の師である新渡戸稲造の「not to do, but to be」の考え方に南原が大きな影響を受けていたことに気づくに至り、新渡戸稲造の普遍的な考え方に強く惹きつかれたそうです。

以降は新渡戸の研究者として研鑽を積み、生誕150周年記念講演を開催するに至っております。樋野先生と新渡戸の出会い、人と人との出会いが連鎖的に繋がることで成し得た言葉による時空を超えた出会いであります。そしてその出会いが人としての根源的な意識の覚醒を促し、樋野先生を「がん哲学外来」という新たな価値観の創造へ導く源となったのです。

まさに人生の邂逅～不連続の連続性とはこのような事を指していると思います。新渡戸稲造記念センター設立1周年にあたり、樋野先生のこれ迄のご尽力に敬意を表すると共に、更に多くの方々が人生の邂逅により品性の完成に繋がる階段を見出せるように変わらぬお力添えをさりげなく賜われるように希望しております。

新渡戸稲造記念センター長 樋野先生へのメッセージ 近畿中央病院 病理診断科 安原裕美子

病理診断をしている、という狭い部屋でじっと顕微鏡を覗いている印象がありますが、顕微鏡を通して見える世界というものは、臓器別に分かれている臨床医とは違って、横断的に、そして病気の全体像が俯瞰して見えるため、いろんなことがよく見えることがあります。最近では、病理診断は単に診療のスタートとしての病名の決定にとどまらず、病気の程度の評価や予後予想因子、薬剤への反応性等を調べる手段として注目を集めており、こちらよりも臨床医に近づいた存在として、臨床医と二人三脚をしているような心持ちで仕事をしています。

5年ほど前に樋野先生が当時の病院に講演に来られてから、がんサロンへ参加するようになり、そこから要望のある患者さんに病理標本の説明をするようになりました。乳癌の患者さんが多く、手術の病理結果は術後第一回目の外来で説明されることが多く、その時はがんが取りきれていることと手術の傷がきちんと治癒しつつあることを聞いたところで、それ以上のホルモンレセプターやHER2タンパクの発現がどうであったか等については、術後のしんどさもあり、きちんと聞ける状態にない場合が多い。それにも関わらず、それからの治療期間は長く、溢れんばかりの医学情報に翻弄されるはめになる。がんセンター等の正確な情報であっても、自分の病気の立ち位置がどこにあるのか分からない場合には、全くもってそれらの情報は役に立たないのは、皆さんもご存知の通りと思います。こういう場合、主治医に聞いてみればいいじゃないの。となるのですが、日本の3分診療では聞くこともままならず、そしてまた悶々として過ごす方が多い。ここで、がんサロンにいる病理医の出番で、患者さん本人が聞きたいと思ったタイミングで、ゆったりとした時間の中で病気の整理をする。病気の整理がされていくに従って、心の整理もされていく様を見ると、自身の病気を知ることの重要性を痛感させられます。

病理医として正確な診断はもとより、こういったソフト面での活躍がさらに発展されることが望まれます。樋野先生には変わらず私たちを導いていただきたいと思います。

真理は円形にあらず

日本対がん協会 事務局次長 中村 智志



「人生にはもしかするとこのときのためと思えることがある」「病気であっても病人でない」「種をまく人になる」……。『アエラ』2020年2月24日号で人物ルポを書くため、昨年秋から樋野興夫先生取材し、多くの言葉と出会った。不思議に思ったのは、樋野先生はいつも同じような話をするのに、がん哲学外来カフェに集う人々が飽きずに聞いていることである。

みなさんの話を総合すると、「そのときどきで微妙に違う（それを楽しんでいる）」「自分の状況によって響く言葉が異なり、発見がある」といったところだ。

なるほどと思った。言葉は、受け止める人がいて初めて、本当の輝きを得る。樋野先生の好きな内村鑑三の箴言を思い出した。「真理は円形にあらず……中心は二個ありて、その形は楕円形である」。これをカフェにあてはめれば、樋野先生と集う人々、2つの中心があって楕円形を成しているとなろう。内村の言葉だけでなく、聖書のメッセージも新渡戸稲造の思想も、2つの中心の間で共鳴し合い、深められる。各地にカフェが誕生することで、輪も広がる。

ふと気づくと、私も、折々に樋野先生の言葉を思い出す。記事が載った後も、楕円形の世界に触れることを楽しんでいる。